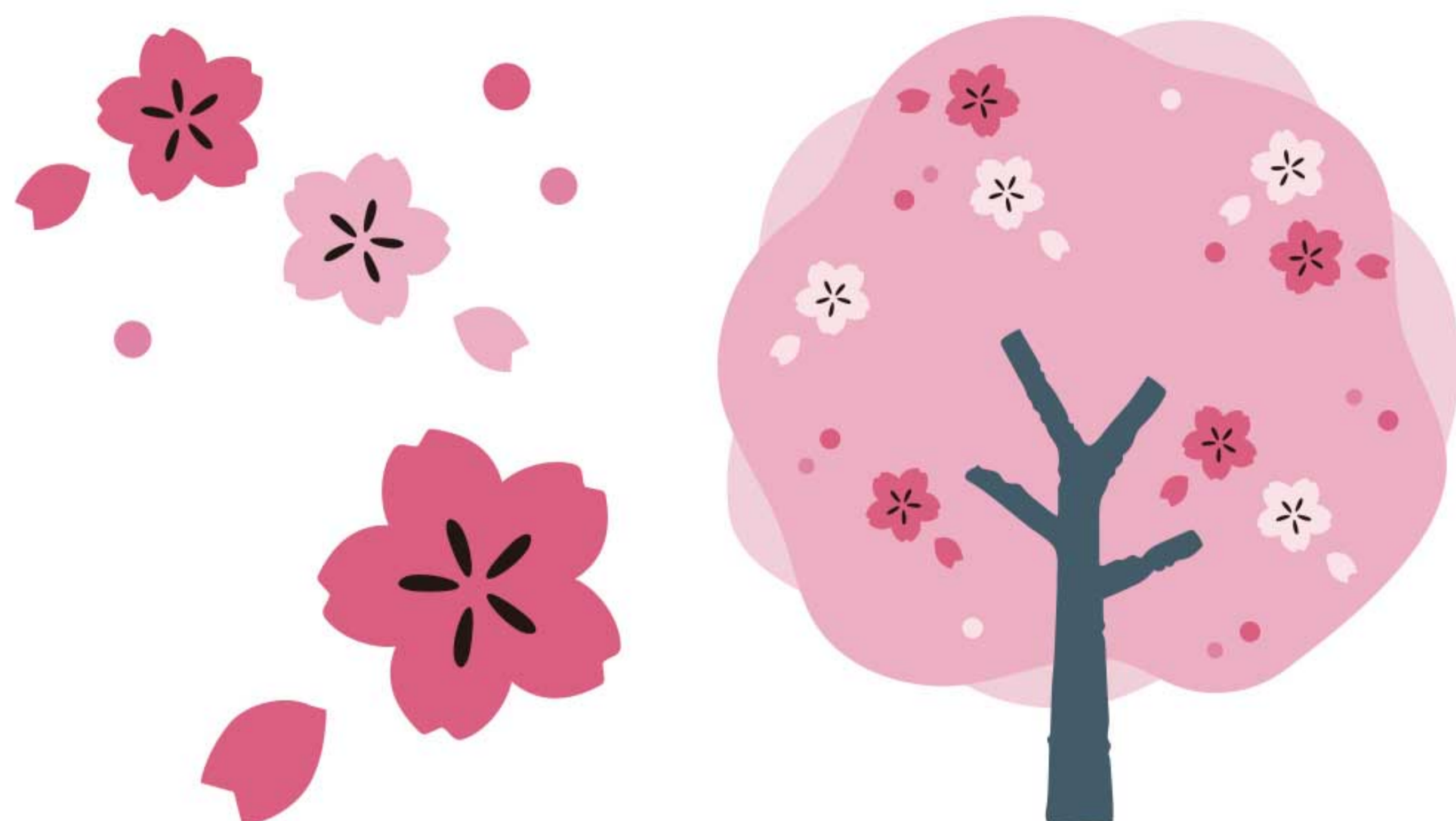


# 西田 まちこ

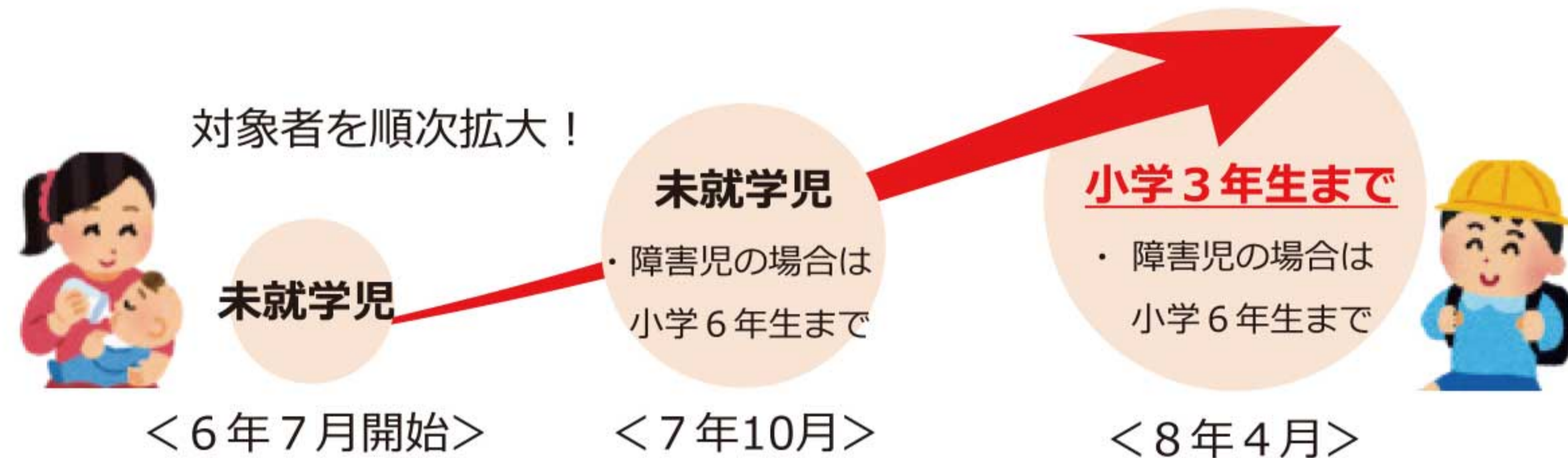
練馬区議会議員



## 令和8年4月から開始する事業

### 子ども子育て事業

- ・5歳児健診。11年度小学校入学予定者(10月以降に4歳6か月に達する子)を対象に、8年度秋から順次実施。発達の特徴を早期に把握し、スムーズな学校生活への移行を専門的にサポート。
- ・小1の壁を解消するため、朝の居場所を確保するモデル事業を5校(開進第一小、南町小、光が丘夏の雲小、関町北小、大泉第四小)でスタート。
- ・ベビーシッター利用が小学3年生まで拡大(障害児の場合は小学6年生まで)。
- ・子育てスタート応援券や産後ケア事業利用者カードの電子化。



### 高齢者支援事業

- ・地域包括支援センターや認知症なんでも相談のオンライン相談の開始
- ・権利擁護支援の充実 高齢者等の社会的な孤立による不安を解消するため、身寄りがない高齢者等への支援として「ねりま架け橋プロジェクト～ひとりにしない～」を開始。

### 保健福祉事業

- ・生活に困窮する就職氷河期世代への支援 40～54歳の区民から無作為抽出された4,000人を対象にアンケート調査を行い、生活、就労、社会参加を支援。
- ・障害者の18歳の壁解消に向け、通所定員や通所日の拡大、医療的ケア対応送迎車の運行開始。
- ・ひとり親家庭のメンタルヘルス相談やピア相談の開始。
- ・在宅医療提供体制 支援担当(チューター)制度の導入 サポートセンターが支援担当となる在宅医を調整。



### 環境・都市整備等

- ・田柄地区を23区初の「空家等活用促進区域」に指定。接道要件等の基準見直し。個別訪問による周知・勧奨や費用助成の拡充など建て替え等を促進。
- ・家庭から排出される使用済食用油の回収量は23区トップ。8年度から小中学校等の区立施設からも全量、持続可能な航空燃料(SAF)に資源化。
- ・カーボン・オフセット事業 友好都市・長野県上田市と連携し、市の森林整備で得られたCO2吸収量を区のCO2排出量と相殺する。
- ・商店街街路灯LEDランプの個別交換への補助 補助率・補助限度額 1/2・40万円。
- ・「高松みらいのはたけ」の拡張用地に整え、武蔵野の原風景を再現した「麦畑事業」実施。

## 予算特別委員会にて、款ごとに、以下の質問をしました。

### 【保健福祉費】

- Q: 認知症の方が「支えられる側」にとどまらず、その個性と能力を活かして主体的に活躍できる場を広げていくべき。現在の取り組み状況と今後の展望は？
- A: 区では、認知症の方の活動拠点であり、当事者同士の交流の場である本人ミーティングを年400回程度開催している。当事者である音楽家の方の演奏会や、当事者の茶道の師範によるお茶会など、それぞれが活躍できる場を広げている。
- Q: 補聴器購入前の相談から購入後のアフターケアまで包括的にサポートする体制を。
- A: 認定補聴器技能者の聴こえの講演会を開催し、補聴器のお試しや相談会も実施。補聴器専門店や、専門職のいる店舗や、アフターケアを行っている店舗での購入を推奨している。
- Q: 補聴器助成を受けた方が、実際に継続して使用できているのか、外出機会が増えるなどの「生活の質の変化」があったのか？
- A: 補聴器助成を受けて1年後の追跡調査でアンケートを実施し、継続率は95%で、92%が「会話が増えた」「安心して外出できるようになった」など、生活の質がよくなったと回答。
- Q: 地域包括支援センターは「介護が必要になってから行く場所」というイメージがあるが、介護を必要としない層に対し、包括の存在やその多様な機能を周知するために、どのような広報・啓発を行っているのか？
- A: 高齢世帯のみならず、様々な年齢の区民に地域包括支援センターを知っていただくため、動画配信などのSNSを活用する他、コンビニエンスストア等での出張型街かどケアカフェの開催、区内金融機関での出張相談、地域のイベントでの出店など、広く周知している。
- Q: 地域住民が主体となって運営する「街かどケアカフェサロン型」を拡充すべき。今後の具体的な取り組みは？
- A: 地域生活支援コーディネーターが、支援が必要な高齢者を地域の活動をしている団体等につなぐとともに、元気高齢者を地域団体の活動の担い手としてつなぎ、活躍の場を広げている。また、活動団体の立ち上げも支援しており、毎年数カ所で新たに区と協定を締結。
- Q: 独居高齢者は増加傾向にあり、見守りがある施設を希望する人は多い。区内に都市型軽費老人ホームは都内最多の17カ所あるが、110名が待機している。自立型の見守りサービス施設は需要があると考えますが、区の考えは？
- A: ひとり暮らし高齢者の増加に伴い、ニーズが高まると見込まれるため、現行の計画期間中においては、引き続き整備を進めていく方針。来年度は1カ所の整備に着手し、さらに2カ所を公募する予定。



### 【防災費】

- Q: 避難拠点にある老朽化や時代のニーズに合わなくなった備蓄品をどのように更新していくのか、その方針は？
- A: 耐用年数などを目安に資器材の更新をしている。今年度から保管や運搬がさらにしやすい圧縮毛布への更新も行っている。災害時の使用も想定して、より性能などに優れた資器材へ更新していく。
- Q: 近隣同士の避難拠点との情報共有や合同訓練など連携体制は？
- A: それぞれの避難拠点での先進的な取組を会議等で区職員から紹介し、情報共有と各拠点の取組の促進に努めている。また、区主催の避難拠点情報交流会も毎年度開催し、講和や意見交換を通じて拠点同士の情報共有を図っている。

### 【スポーツ振興費】

- Q: デフスポーツのさらなる振興と、差別のない社会の実現に向けた取組を。また、デフアスリートと直接交流できる体験教室の積極的開催を。区の見解は？
- A: 大会の「レガシー」として、7月のデフサッカー体験教室を皮切りに、卓球・陸上・空手など他種目の体験会も検討。地域スポーツクラブ(SSC)とも連携し、普及を加速させる。
- Q: 誰もが主役になれるユニバーサルスポーツ環境の構築に、一層力を注いでいくべき。
- A: 人気の高いボッチャでは、全世代・障害の有無を問わない「ねりまカップ2025」を開催。共生社会の実現に向け、さらなる内容充実を努める。
- Q: 総合体育館は、将来的な国際大会の開催を見据えた施設改修や整備を検討すべき。
- A: 国際大会に対応するためには、競技規格への適合や観客席、導線、設備といった様々な課題がある。今後、実施する基礎調査や区民の声を伺いながら、総合体育館の機能や規模について検討していく。
- Q: 区民からは、練馬こぶしハーフマラソンに「10kmコースがあれば走りたい」という声が多い。追加の予定は？
- A: 交通規制や運営上の支障から、現時点での追加予定はなし。

### 【農業経費】

- Q: 「農地の貸借の意向」がある方に都が実施している「農地長期貸借促進奨励事業」の周知をし、生産緑地貸借制度の活用促進に取り組んで頂きたいと考えるが、区の考えは？
- A: これまでに23区最多の30件の貸借が成立している。制度のさらなる活用促進に取り組んでいく。
- Q: 全戸訪問を通じて寄せられた声に対して取組んだものは？
- A: 既存の補助制度が、区、東京都、JAなど、実施主体が多岐にわたっているため理解しづらいと言った声に答えるため、区、都、JAなどが実施する支援策をまとめた練馬農業者の便利帳を発行し、区内農業者に配付するとともに、全戸訪問時において支援策の周知に活用している。



### 【環境費】

- Q: 区内に46カ所の廃食用油回収場所設置。今後の拠点拡大や設置場所に関する区の方針は？
- A: 区内46カ所の拠点で23区トップの回収量(15トン)を誇る。8年度から区役所等の常設回収場所を計7カ所に増やし、実施状況を踏まえさらなる拡大を検討する。
- Q: SAFへの理解を深め、資源循環を身近に捉えるきっかけづくりとして体験型イベントの開催を提案。区の見解は？
- A: SAF資源化の協定事業者と協力し、イベント等でSAFへの取組について周知啓発していく。また、小学校や保育園でのふれあい環境学習においてもパネルを作成し、周知啓発をしていく。



いつでも、お気軽にご相談ください。



X (旧Twitter)  
@nishidamachiko



ホームページ  
nishidamachiko.com



facebook



Instagram

西田まちこ

検索